

高脂血症の治療にフェノフィブラート系薬剤を使用した猫の1例*

添田 健作¹⁾

Kensaku SOEDA

低脂肪食給餌中に膵炎を発症、治療後も高脂血症を呈し続けた猫に対して、種々の脂質代謝改善薬を使用した。脂質代謝改善薬開始10カ月経過したが改善が認められなかったため、猫での使用報告が極めて限られているフェノフィブラート系薬剤を使用したところ、副作用を呈することなく良好な治療反応が得られた。

キーワード：高脂血症、フェノフィブラート、猫

はじめに

高脂血症は犬および猫に認められる脂質代謝異常症である。高トリグリセリド (TG) 血症の治療には、低脂肪食による食事療法と脂質代謝改善薬による薬物療法が一般的な治療とされている。今回、低脂肪食給餌中にもかかわらず膵炎を発症し、治癒後も高TG血症を示し続け、種々の脂質代謝改善薬の投与に反応が乏しかった猫に対して、フェノフィブラート系薬剤を使用したところ十分かつ良好な結果が得られたので、その概要を報告する。

症 例

症例は、雑種猫、雌 (避妊済)、2歳9カ月齢、体重3.9 kg。ボディコンディションスコア (BCS) 3.5/5

治療および経過：急性膵炎発症後治療を行い、元気食欲共に回復した。その後も臨床症状はなく、院内の血液化学検査にて総TG濃度のみ375 mg/dl以上 (参考値：10-100 mg/dl) と高値を示し続けたため、スペクトラムラボジャパン株式会社の提供する脂質解析サービスであるLipoTESTを行ったところ、総TG値は711.27 mg/dl (参考値：0.00-110.00 mg/dl)；CM、VLDLトリグリセリドの著増が認められた。そこで低脂肪食の継続とエラスターゼ1800UをBIDで1カ月投与したが総TG値に変化はみられず、クリノフィブラート系薬剤であるリ

ポクリンを2 mg/dl, SIDで開始、2週間目よりCoQ10を5 mg/kgで併用した。2週間毎に院内にて総コレステロールおよび総TG値の評価を行った。総TG値は375 mg/dl以上と高値を示し続けたため、リポクリンを漸増した。リポクリン開始後2カ月目の院内検査においても総TG値は375 mg/dl以上を示していたため、LipoTESTを再度行ったところ、総TG値は447.2 mg/dlと低下が示されたものの高値を呈していた。その後はリポクリンを8～12 mg/kg, TIDまで増量した。リポクリン導入後10カ月経過するも総TG濃度は依然として375 mg/dl以上と高値を示していたため、犬で使用例のある[1]フェノフィブラート系薬剤のリピディルを3 mg/kg SIDで、飼い主の了承を得て開始した。リピディル開始後2週間目には、総TG濃度は113 mg/dl、4週間目には75 mg/dlまで低下した。その後リピディル3 mg/kg, QODに変更すると、総TG値は2週間目に150 mg/dl、4週間目には184 mg/dlに上昇した。リピディルを2 mg/kg SIDに変更投与すると、総TG値は2週間目123 mg/dl、4週間目111 mg/dl、6週間目には115 mg/dlと安定した結果が得られた。現在のところ、リピディルの投与量・投与間隔は2 mg/kg SIDで継続しているが、理想体重へ減量され (3.9 kg→3.5 kg)、嘔吐や食欲低下などの臨床症状や肝酵素の上昇は認められていない。

* The usage of fenofibrate with a hyperlipemic cat

¹⁾ 隼人どうぶつ病院；〒870-0126 大分県大分市横尾4213-2

考 察

本症例の高脂血症は、急性膵炎発症前から存在していたかは不明であるが、猫においてリポ蛋白リパーゼ欠損症の報告があり、カイロミクロンが著しく上昇する本疾患では、膵炎を来し易い[2]。また院内検査でTG値が常に上限を越える本症例において、治療薬選択並びに治療反応の評価にLipoTESTが有用であった。猫の高脂血症に対するフェノフィブラート系薬剤の使用報告はほとんどなく、投与量、投与間隔、副作用に関する情報も十分に得られていない。本症例は、リピディル開始以降も肝機能検査を2週間毎に行い、治療反応に基づきフェノフィブラート2 mg/kg SIDで維持している。人におけるフェノフィブラート系薬剤の副作用には、肝酵素値の上昇が報告されており、投与前TG、 γ -GTP、ALT値が高値の患者、BMI低値の女性に多く認められる[3]。現在のところ肝酵素の上昇は認められていないが、TG値が劇的に下がった本症例においては、今後も十分にモニター

しながら副作用の発生に注意し、投与量・投与間隔を随時調整する必要がある。今後のさらなる課題として、副作用に対するモニタリングの頻度、項目、生涯治療の必要性があげられる。

参 考 文 献

- 1) 吉川真貴、水谷尚、左向 敏紀、大城久仁夫、添田弘、鷺巣月美ほか：第28回動物臨床医学会プロシーディングNo.2、45-46 (2007)
- 2) Ginzinger, Clee, Dallongeville, Lewis, Henderson, Bauje, Rogers, Jensen, Eckel, Dyer, Innis, Jones, Fruchart & Hayden: Lipid and lipoprotein analysis of cats with lipoprotein lipase deficiency, *European Journal of Clinical Investigation*, 29(1), 17-26 (1999)
- 3) 早川達、林明美、宮川舞子、下山光一、関谷繁、関口雅友、猪爪信夫：フェノフィブラートによる肝機能検査値上昇の危険因子に関する研究、*YAKUGAKU ZASSHI* 122(2), 169-175 (2002)

ヘパリン 刺激 試験
 リポ蛋白リパーゼ 遊離 試験